資料５

**１．富田林市の文化芸術を取り巻く現状と課題**

**富田林市文化芸術振興ビジョン骨子案**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 社会動向（国や大阪府の動向） | 本市の動向（市民意識調査、市長懇談会等） | 本市の特徴や課題 |
| **文化に**  **ふれる** | ○文化芸術の「本質的価値」（文化芸術とウェル・ビーイングの相関関係）  ○直接鑑賞だけでなく間接鑑賞（テレビ，ラジオ，CD・DVD，インターネット配信等）も含めた鑑賞の多様化  ○年齢、障害の有無、経済的な状況又は居住する地域にかかわらず、等しく、文化芸術を鑑賞・参加・創造することができる環境整備 | ○直接鑑賞する市民は約70％。メディア芸術（約43％）、美術（約40％）、音楽（約36％）が多い。  ○間接鑑賞する市民は、音楽（約35％）、メディア芸術（約31％）、演芸（約19％）が多い。  ○鑑賞しない理由は仕事等で時間がとれないが約44％で最も多い。興味のある催し物がない（約42％）やコロナ禍（約41％）も多い。  ○情報収集は友人・知人からの誘い（鑑賞：約33％、活動：約25％）、市の広報誌（鑑賞：約26％、活動：約17％）。  ○子どもはメディア芸術と音楽が多く、家族・友人や学校の授業・事業で鑑賞している。 | **～市民誰もがそれぞれのライフステージにおいて、文化芸術を鑑賞・体験する機会があり、きっかけとなる情報を収集できる～**  ○文化芸術を鑑賞する市民は多く、特に年齢が高いほど鑑賞している。  ○年齢、性別、職業、子どもの有無、居住地等で鑑賞・活動している割合にばらつきがあり、「仕事」、「子どもや介護」が鑑賞・活動しない理由になっている。  ○コロナ禍で直接鑑賞を控える市民が多い一方、テレビやDVD、インターネット等で間接鑑賞する市民は多く、情報収集の方法も多様化。 |
| **文化を**  **つなげる** | ○文化芸術の「社会的・経済的価値」  ・文化経済の好循環（イノベーションの源泉）  ・文化観光の推進（文化財・文化資源の利活用）  ・文化芸術を活かした社会的包摂／社会的処方による共生社会の実現 | ○文化を活用する分野として、学校教育が約39％で最も多い。続いて高齢者・障がい者福祉が約36％。生涯学習が約33％。  ○鑑賞・体験から参加、そして協働へと進む流れがある。  ○文化財の活用を期待する意見がある（特に寺内町の存在）。 | **～歴史文化を中心に、文化芸術を「団体同士」「文化施設」「他分野」へつなげていく～**  ○文化芸術を観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野につなげていく方向性がある  ○富田林市は文化芸術分野に限らず、鑑賞・体験や参加だけでなく、「団体同士」や「文化施設」との協働に対する期待感がある。  ○本市の「寺内町」は市外から注目を集める地域資源であり、市民の「歴史文化」に対する意識も高い。 |
| **文化を**  **そだてる** | ○子どもの文化活動環境の変化（まずは休日から部活動の地域移行の流れ）  ○文化施設の役割の変化（地域の文化拠点、心豊かな生活を実現するための場、地域の発展を支える新しい広場、国際社会の発展に寄与する世界への窓）  ○大阪アーツカウンシル | ○活動する市民は約30％。音楽（約11％）、美術（約11％）。以前から継続的に活動している市民が約42％。  ○活動しない理由は仕事が約41％。興味・関心がないが約33％。  ○鑑賞場所は大阪市が約57％、富田林市が約43％。市内の内訳はすばるホールが約80％。一方、活動場所は富田林市が約57％。内訳は自宅が約35％、すばるホールが約31％。  ○鑑賞・活動環境について不満・やや不満が目立つ。  ○文化を支える活動を約39％がしていない。  ○子どもは音楽と美術が多く、学校の授業・事業で活動している。一方、子どもに習い事をさせている世帯は半数以下。  ○富田林市文化振興基金による長年の文化活動助成がある。  ○本市の文化活動を支えてきた公民館の存在がある。 | **～すばるホールや公民館、富田林市文化振興基金等を活かして、これからの文化芸術の担い手をそだてる～**  ○（国等と比べて）文化芸術活動に取り組む市民は多い。  ○子どもの文化芸術活動は学校の授業や事業が多く、部活動や習い事は少ない。  ○文化鑑賞・活動について、すばるホールを利用する市民が多いが、鑑賞・活動環境に不満を抱えている市民も目立つ。一方、すばるホールだけでなく公民館も市民の文化活動を支えてきた。  ○文化芸術のボランティアやサポートを行う市民は少ない。一方、市は富田林市文化振興基金による文化活動に対する助成を長年実施。 |

**２．将来像と方向性**

計画本文に河内弁を活用し、富田林らしさを表現します。

**例）文化芸術の“とんど”を未来につなげるまち・富田林**

**主な施策・取り組み（案）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 施策の柱 | 主な取り組み（案） |
| ふれる | 鑑賞・体験する機会の拡充 | ○すばるホールや公民館での鑑賞・体験事業  ○オンライン鑑賞事業 |
| 市民誰もが文化に触れる機会や環境の充実 | ○託児付き／アートスタート事業等  ○夜間や休日における鑑賞機会の充実  ○乳幼児や障がい者等が参加できる機会 |
| 多様な情報の収集・発信 | ○魅力的なとんだばやし文化・コンテンツの収集・編集  ○SNSの活用 |
| つなげる | 文化芸術をつなげる団体や人材の育成 | ○コーディネーター育成  ○アーティストバンクの実施（登録・派遣）  ○ハンドブックの作成 |
| 文化芸術を媒体としたアウトリーチの展開 | ○幼稚園・学校や病院・福祉施設、民間企業等へのアーティスト派遣（アウトリーチ）  ○文化芸術活動を介した市民交流の機会提供 |
| 大学や企業も含めた協働の取組の実施 | ○複数団体による協働事業  ○まちなかでの文化芸術活動の展開 |
| 文化芸術の経済的・社会的価値への波及 | ○生活に配慮した文化観光の推進（寺内町）  ○文化と福祉の融合支援 |
| そだてる | 文化芸術活動に対する支援の充実 | ○基金を利用した活動助成  ○富田林市民文化祭の支援  ○寄附制度の検討 |
| 子どもの文化芸術活動に対する支援の強化 | ○学校教育との連携強化  ○習い事の支援  ○部活動の地域移行 |
| 文化施設の機能強化（すばるホール、公民館） | ○減免等の利用しやすさ  ○アクセシビリティの強化  ○サポーターの育成 |

**方向性**

**将来像**

**○○○○○○○○**

（参考：富田林市総合ビジョンおよび総合基本計画）

**市民が日常の中で文化・芸術にふれる場があり、**

**文化・芸術活動を通じた体験や交流に参加することで、**

**心豊かで文化的な、質の高い生活を送っている**

■富田林市ならではの文化（第１回市長挨拶より）

・農業資源を活かした文化

・文化財・歴史文化

・ものづくり文化　等

■文化芸術は「つなげる」へ（第１回委員会より）

・鑑賞・体験する　→　参加・活動する

→文化芸術を「つなげる」

■“心豊かで文化的な、質の高い生活”とは？

**市民が文化芸術にふれる**

・市民が文化芸術に触れる機会が増えることで、「生きる力」や「自己肯定感」等、市民の幸福度（ウェルビーイング）が高まっている

「富田林市ならではの文化」を文化の範囲に含める

**市民が文化芸術をつなげる**

・文化芸術を媒介として文化団体同士や大学、企業をつなげたり、観光や福祉等の他分野とつながったりすることで、まちの魅力が高まっている

文化芸術に触れる人が増え、市民の「ウェルビーイング」が高まっている

**市民が文化芸術をそだてる**

・すばるホールや公民館、また富田林市文化振興基金等により、これからの富田林市ならではの文化の担い手が育っている

富田林ならではの文化芸術について、新たな担い手が育っている

まちなかで文化芸術につながる機会が増え、また文化芸術を通じて社会課題の解消に寄与している